

# 市民と市長の対話集会 市長と語ろう！ほっとミーティング 開催結果報告書

- 1 開催日時 平成24年（2012年）2月2日（木）  
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 中原公民館 1階大ホール
- 3 テーマ 防災対策について
- 4 出席者 参加者10名 傍聴者14名



中原公民館での集会の様子

## **5 市長挨拶**

皆様、こんばんは。本日は冬の大変な寒さの中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき、改めて御礼を申し上げます。本当にありがとうございます。この「市長と語ろう！ほっとミーティング」は市民の皆様の生の声、地域の声を伺い、いただいた御意見を市政の参考にし、具体的な政策に反映させたいと考え、始めさせていただいた対話集会であります。

今年度は、昨年3月11日の東日本大震災を受け、防災対策をテーマに開催しています。私も市長に就任させていただいて以来、津波の威力を目の当たりにした中で、どのように市民の皆様の命、財産、そして生活を守るかという行政の最も大きな使命をしっかりと果たさなければならぬと考え、政策を打たせていただいています。本日は皆様の防災対策に関する御意見を聞かせていただき、私の考えを聞いていただき、防災対策という観点からのまちづくりについて、対話を行いたいと考えます。昨年3月11日をきっかけに自治体の進むべき道が変わり、政策を考える上で防災対策は避けて通れないものになりました。

今年度の6月、9月、12月の議会でも様々な防災対策について、審議していただきました。来年度予算について、審議していただく3月の議会においても、防災対策を取り入れた予算編成を御提案させていただこうと考えます。これからも防災対策が充実した安心安全のためのまちづくりを目指します。本日は短い時間ではありますが、よろしく願いいたします。

## **6 対話集会で取り上げられた防災対策の内容**

- |                     |         |
|---------------------|---------|
| ① 災害時の情報伝達について      | 3ページから  |
| ② 防災対策に関する予算について    | 6ページから  |
| ③ 津波対策について          | 7ページから  |
| ④ 地域力による防災対策について    | 9ページから  |
| ⑤ 災害時の帰宅困難者への対策について | 11ページから |
| ⑥ 防災講演会について         | 12ページから |

## 7 対話集会の具体的な内容

### ① 災害時の情報伝達について

#### 【参加者意見・質問】

防災行政無線について、防災の情報以外も放送されるのはなぜですか。また、スピーカーからの放送が重なったり、スピーカーが遠い位置にあるためよく聞こえません。そこで、災害時の情報伝達方法は防災行政無線のみではなく、別の方法があれば情報の伝達が確実にいえます。

#### 【市長意見・回答】

防災行政無線が防災の情報以外のことも放送をする理由について、防災行政無線の所管は防災危機管理課ですが、放送の内容は防災の情報だけに特化せず、行政に関する他の情報、警察からの依頼による迷子や行方不明者の情報、呼びかけ等についても放送を行います。防災の情報と同様に大切な情報であるため、現在の方法を続けたいと考えますので、御理解をお願いいたします。

防災行政無線が聞こえないという御指摘について、この点は各地域においても課題であります。市内124か所にスピーカーを設置していますが、聞こえにくい原因はハウリング、住宅の密集、電車、自動車等の走行音などがあります。そこで、昨年8月1日から補完的なシステムとして、テレフォンガイドを導入しました。ぜひ、皆様にも番号を控えていただきたく御紹介します、0180-99-4956です。防災行政無線で聞こえにくかったことがあった場合、テレフォンガイドで放送の内容を確認できます。ツイッターも導入しました。東日本大震災の時に携帯電話、メールが機能しなくなった中、ツイッターは重要な連絡手段となりました。昨年8月1日、防災危機管理課からツイッターによる防災の情報の発信を始めました。平常時、このツイッターからは総合防災訓練や防災の情報を発信しています。さらに、エリアメールのシステムも導入しました。今まではNTTドコモのみが対象のシステムでしたが、この2月からauとソフトバンクも対象となりました。平塚市から発信された緊急災害情報が平塚市内の携帯電話に飛び込んでくるというシステムであります。

防災行政ラジオも導入しました。自治会長等にお配りをしていただいていた防災行政無線の子機が古くなり、機能しなくなってきました。そこで、代わりに防災行政ラジオを導入しました。防災行政ラジオを520台、線路より南側の海岸地域を中心とした自治会、55か所の避難所、学校等に配布をしました。このラジオは普段、普通にラジオを聞いていただいで結構です。緊急災害情報が発信さ

れると情報が飛び込んできます。需要が多く製造が間に合わない状態ではありますが、順次各地域にお配りをする予定です。市の予算では520台を購入しました。今後は希望される市民の皆様が購入できるかを研究していきます。

**【参加者意見・質問】**

災害時に地域、避難所からの被害状況等の情報も災害対応には欠かせません。そのような情報はどのように収集をしますか。

**【市長意見・回答】**

災害時、市内及び市外小・中学校等に55か所の避難所が設置され、職員が3人から4人配置されます。避難所職員が地域の被害状況等を把握し、避難所にある防災無線で災害対策本部に報告をするシステムになっています。

**【参加者意見・質問】**

平塚市の職員は市民に対して約1%程度です。3人から4人の職員が地域の被害状況等を全て災害対策本部に報告することは難しいと思います。直下型地震が起きた場合、職員も被災をするはずで、そこで、ぜひ市民を活用していただきたいと思います。協力してくれる市民はいるはずで、その時、市民から行政に情報を伝える手段、方法を考えてほしいと思います。私はアマチュア無線に携わっていますが、昨年3月11日に地震が起きた後、20分程度で平塚市の停電地域等の災害情報を集めることができました。この情報を行政に伝えようとしても方法がありませんでした。災害時、このように地域の住民が収集した情報があります。ぜひ、住民から行政に情報を伝える手段、方法を考えてほしいと思います。

**【市長意見・回答】**

地域の被害状況等の情報収集について、災害時に地域の被害状況等の情報を速やかに収集して具体的に災害対応へ活かしていくことは非常に重要です。アマチュア無線クラブとは災害時の協定を結んでいます。総合防災訓練の時も御協力いただいています。今後は避難所への配置職員数及び地域の災害に対応ができる拠点の再整備だけでなく、御協力いただける市民の皆様がより機能できる動き、取り組みをさせていただきたいと考えます。

**【参加者意見】**

災害時にツイッターが機能したという話がありました。ツイッターが機能した理由はオンラインのインターネット網が機能していたからです。インターネット網はどこかが寸断されても別の経路でつながることができます。災害時には基地局を経由する通信、固定電話、携帯電話等は全滅すると思います。理由

は優先電話として登録されている電話の通信を優先するために、通信会社が他の通信に輻輳をかけて遮断をするからです。つまり、災害時に優先電話を持たない一般の住民が情報を集め、発信するためにはオンラインのインターネット網を経由するツール、例えばスカイプ、フェイスブック、ツイッター等が役に立ちます。つまり、そのようなツールを多く持つておくことが必要です。

そこで問題になるのが、そのようなツールを使えないという方が多くいることです。ぜひ、この機会にそのような方、老若男女問わず、みんなが使用できるようにするための取り組み、啓発も今後の防災対策として必要であると思います。

※スカイプ（インターネット電話のソフトウェアまたはサービス。）

※フェイスブック（米国の会社フェイスブックが提供する、ウェブページを作成・公開するサービス。）

※ツイッター（インターネット上で不特定多数の人に向けてごく短い文を発信したり、他の人の文を読んだりすることができるサービス。）

## ② 防災対策に関する予算について

### 【参加者意見・質問】

防災対策を行うために予算は必要になると思います。平塚市の防災対策に関する予算と予算の捻出方法について聞きたい。

### 【市長意見・回答】

平塚市の防災対策に関する予算について、平成23年度の一般会計の当初予算が約800億円です。防災対策経費が約1億9,400万円で、そのうち地震防災対策経費が約8,000万円です。

防災対策において、当然防災対策経費も必要です。選挙の頃から、あまりにも防災対策に関する予算が少ないと考えていました。そこで、議会での承認をいただきましたが、私の報酬の半分を約2年間分、約1,400万円を防災対策に充ててもらおうようお願いをしました。防災行政ラジオの購入と海拔表示の設置に約1,000万円、残り約400万円は来年度の防災対策経費としました。昨年6月には補正予算の約2,000万円を防災対策経費に充てました。避難所のハード面での整備として、学校の屋上にフェンスを設置しました。また、547万円で東海大学工学部に依頼し津波浸水モデルシミュレーションを作成しました。ハード面の整備とともに、このような逃げるための算段や意識啓発を行う防災対策も御提案させていただいています。予算をどこから生み出すかということも重要です。予算には限りがあります。予算をかけるべき防災対策について、現在議論を行っています。しかし、借金を続け大きく膨れ上がらせることは将来への負担を増やすこととなります。防災対策に必要な予算と借金のバランスを取り、予算編成を進めています。

また、お金に関することでは、県内全体の市町村とともに東京電力に対する放射能汚染への賠償も検討しています。

### 【参加者意見】

地震防災対策経費について、約8,000万円ということですが、1桁足りないくらいだと思います。大変少ないと感じざるをえません。津波浸水モデルシミュレーションについても、例えばNASAのサイトに無料で利用できるフラッドマップというものがあります。これは詳しく浸水の様子を観ることができます。同様の無料サイトは多いため、上手に駆使すれば、予算を使わずに浸水の様子を観ることができ、意識啓発を行うことができると思います。そのような無料サイトの利用は検討しましたか。(※) 確認結果は、「9 集会後の確認結果」に記載してあります。

### ③ 津波対策について

#### 【参加者意見・質問】

東日本大震災を受けて、地震により津波が発生した場合の避難施設である津波避難ビルについて、現在の対策状況と今後の対策について聞きたい。

#### 【市長意見・回答】

津波避難ビルについて、最近2月1日に桜ヶ丘にあるカルチャーボンズと協定を結ばせていただきました。これにより、津波避難ビルは公共施設を含めて市内24か所となりました。

津波避難ビルとは大津波警報が出された時、遠くよりも高い所へ避難をする目的の建物です。3階以上の建物で避難するスペースがあり、鉄筋、鉄骨コンクリート造により強度があることが要件となります。線路より南側に3階以上の建物が約400棟あり、その中から津波避難ビルの要件を満たす288棟を抽出しました。平塚市と地元自治会、建物の持ち主やマンションの場合は管理組合とが協定を結びます。協定の内容は津波避難の時、地域住民の避難を受け入れてもらえるというものです。なお、避難の時に発生した損害については、平塚市が修理の負担をします。

津波避難ビルの協定及び指定が遅いとのこと、御指摘をいただいています。現在、協定及び指定のために、防災危機管理課担当職員が1棟1棟順番に訪問、説明し、協定のお願いをしています。マンションの場合、全ての住民の了解を得なくては管理組合の了解とはなりません。やはり、住民の中には知らない人がマンションに入ってくる、居座られることに抵抗があり了解ができない方もいらっしゃるようです。今後も協定及び指定のために1棟1棟お願いを続けていきます。

#### 【参加者意見・質問】

河川の整備など、津波の溯上への対策について聞きたい。

#### 【市長意見・回答】

津波浸水モデルシミュレーションにおいて、津波の高さを6.8メートルと10メートルに設定しました。この設定は神奈川県が想定する最も大きな地震が発生した場合、平塚市に達すると予測される6.8メートルの津波、さらに今回想定を超える10メートルの津波を設定しました。御存知のとおり、平塚市は国道134号線の高さが8メートルあります。神奈川県は想定では、6.8メートルの津波は国道を超えて平塚市には浸水しません。国道とは別に、相模川、花水川を溯り東西から低い所へ浸水する可能性はあるとのことでした。

相模川について、平塚市側の護岸の82%に堤防が整備されています。18%は河口と銀河大橋の下の一部です。その堤防が整備されれば、相模川の平塚市側は100%堤防が整備されることとなります。反対側の茅ヶ崎市側は約60%の整備率であります。平塚市には飛び地として茅ヶ崎市側に須賀新田があります。もし6.8メートルの津波が相模川を溯った場合、津波が平塚市側ではね返り、茅ヶ崎市、寒川町側に浸水する可能性が高い状態です。そこで毎年夏になると、茅ヶ崎市長、寒川町長とともに、相模川を管轄する国に対して、護岸の整備の要望を継続して行っています。

金目川についても、同様に管轄である神奈川県に対して、護岸の整備の要望を継続して行っています。

また、神奈川県が作成中の津波浸水予測図が平成23年度中に完成することです。完成後、それを参考にした津波マップを総合的な防災マップとして作成します。この防災マップには、平塚市内の倒壊率の危険性、液状化がどこで起こるのか、津波避難ビルの位置、避難所の位置、医師、歯科医が集まり薬の提供を行うことができる臨時救護所の位置等、防災の情報を載せた総合的な防災マップを作成し、平成24年度中に平塚市内全家庭に配布したいと考えます。

#### 【参加者意見・質問】

津波避難ビルについて、協定及び指定がなかなか進まないとのことですが、今後、新しく建築するマンションには協定をお願いするのではなく、協定を結ぶことを建築条件にしてみてもはどうでしょうか。行政は思い切って、その位のことをしていかなないと津波避難ビルの増加にはつながらないと思います。

#### 【市長意見・回答】

今後、新しく建築するマンションに対して、津波避難ビルの協定のお願いや指導をすることはできないか、という点については現在担当課が調べているところです。新しく建築するマンションの協議が起こった場合、ぜひ津波避難ビルの協定をお願いができるよう考えていきたいです。

また、津波避難のために、大きな高い建物を多く建てればよいというものでもありません。現在、平塚駅から南側の地域では建物への高さ制限があります。今後、高さ制限を撤廃し、津波避難ビルのために大きな高い建物を建てることは平塚市の景観を損ねてしまう可能性があります。市民の皆様の安心安全を守るとともに素晴らしい平塚市の景観も守っていかなければなりません。

#### ④ 地域力による防災対策について

##### 【参加者意見・質問】

防災対策には地域の力が大切です。地域で地域の人を助けるという点について、災害時要援護者の支援をどのように進めていくのかを聞きたい。

##### 【市長意見・回答】

災害時要援護者の支援について、災害時要援護者登録制度を民生委員、児童委員の皆様をお願いをし、災害時に支援が必要な人の登録を進めています。1月25日現在、5,455人の登録があります。この数は決して多いものではありません。今日も民生委員児童委員と話し合いをする場がありました。個人情報、プライバシーの問題はあるが、行政が要援護者の情報を提供できないことが登録を進める上での課題であるというお話をいただきました。当然、この点については行政が考えなければならない課題です。同時に高齢者、障がいのある方については、個人情報、プライバシーの問題はありますが、災害時のために、災害の時には支援が必要であることを、自分から地域の人に伝えていただきたく、登録をお願いしているところです。登録において、支援者を一人付ける必要があるという問題もあります。今後、制度という点では地域で地域の人を助けるという仕組みづくりを再度考える必要があると考えます。

地域力という視点では、阪神淡路大震災の時に家屋が倒壊し、たくさんの方が亡くなりました。しかし、倒壊した家屋から助け出された方もたくさんいました。自衛隊でも警察でも消防でもなく、消防団も含めた地域の住民が多くの方を救助しました。救助された方の60%くらいは、そのような地域の力により助け出されているのです。地域とのつながり、人と人とのつながりを一つでも多く持っていた方が助かっているのです。決して行政がやらないというのではなく、地域の人を地域が守るという共助が大きな力になるのです。

##### 【参加者意見・質問】

障がいのある方に関わる仕事をしています。災害時、障がいのある方への対策について聞きたい。例えば、自閉症の方は避難者が多く集まる避難所では安心して生活ができないと思います。

##### 【市長意見・回答】

障がいのある方が被災された場合のために福祉施設と協定を結んでいます。障がいのある方が被災された場合には施設に避難をできるというものです。

また、障がいのある方が御自身の障がいについて説明をする必要はありませんが、自分はここに居て災害時には支援が必要であることを地域との関わりに

よって知っておいてもらうことはとても大切です。何度も主張させていただきますが、地域とのつながりが災害時、支援を必要な方の大きな力になります。

#### 【参加者意見・質問】

災害時要援護者の支援に約6年携わっています。支援には平時の取り組みが大切です。今、地域コミュニティが希薄になり、マンションでは隣に誰が住んでいるか知らない状況の中で災害に備えなくてはなりません。これは非常に大きいテーマです。茅ヶ崎市では災害時の要援護者の支援の研修会が地域ごとに頻繁に行われています。平塚市では同様の啓発が無く、地域に制度が周知されていません。それとともに地域にこの支援に取り組む風土ができていないことも問題です。今、必要なことは自治会、町内会がこの支援を認識し学習することです。例えば、ガイドブックを作成し、地域で自治会、町内会に説明して理解をしてもらう必要があるのではないのでしょうか。地域に出向いて専門的な啓発活動を行っていただきたいと思います。みんなで問題を共有する必要があります。この問題は6年間予算0円で取り組んできました。つまり、関心が少なかったのです。落合市長が防災対策を強化すると言っていただき、ようやく平塚市の防災対策が動き出した今、ぜひこの制度についても進めていただきたいと思います。そのための協力はいくらでもしたいと思います。

#### 【市長意見・回答】

防災対策において、意識を持つこともとても大切なことです。災害時要援護者の支援において、手を差し伸べて支援をするべき人がいることを地域で意識することも大切です。災害時要援護者の支援の体制づくりを進めるためには御提案のとおり、自治会、また自主防災組織への意識付けということも行わなければなりません。ぜひ、お手伝い、御協力をお願いいたします。

私は平成12年から平成14年まで防災の担当課に所属していましたが、当時はまだ阪神淡路大震災の余韻が残る頃で、自治会、自主防災組織の活動の中でも防災訓練を多く行っていました。その活動は平成20年度が119回で参加者が約8,300人、平成21年度が98回で参加者が約6,500人、平成22年度が56回で参加者が約5,400人です。徐々に防災に対する意識が薄れている表れです。ところが、今年度は昨年3月11日の東日本大震災以後の4月から12月までで105回、参加者は約8,000人です。ぜひ、この機を逃さずに、防災に対する意識を高める活動、啓発を行っていきたく、津波浸水モデルシミュレーション等も活用し、防災意識を高めるための工夫と呼びかけをしていきたいと考えます。

## ⑤ 災害時の帰宅困難者への対策について

### 【参加者意見・質問】

私は市外から平塚市にある会社に通勤しています。昨年3月11日、私は地震発生後帰宅をしました。東海道線が止まってしまったため歩いて自宅に帰りました。私は自宅が歩いて帰れる場所であったため帰宅することができましたが、平塚駅周辺でも多くの帰宅困難者が発生したことを聞きました。これからも平塚市に通勤する者として、帰宅困難者への行政の対策、対応には非常に興味があります。災害時、平塚市の帰宅困難者への対策、対応について聞きたい。

### 【市長意見・回答】

昨年3月11日、地震発生後、平塚市では崇善小学校、江陽中学校の2校を開放し、平塚駅周辺等で発生した帰宅困難者の方に待機をしていただきました。開放をした学校では、帰宅困難者の方に食事、飲料の提供もさせていただきました。

平塚市に通勤で通っている方への災害時対応について、帰宅及び帰宅困難時の対策、対応は重要な課題です。市内の企業にも呼びかけをさせていただこうと考える中で、まずは働いている企業が対応をしていただきたいと思います。

## ⑥ 防災講演会について

### 【参加者意見・質問】

先日、1月22日に中央公民館にて行われた防災講演会に参加しました。1,200人が来場したそうです。会場は700人しか入れないため、200人がロビーのモニターで見学をし、300人は帰ってしまったということを知りました。このことが災害時の平塚市の対応に反映するのではないかと心配します。例えば、津波が発生した場合、避難してきた人を帰すわけにはいきません。防災講演会と津波では別のことですが、平塚市の対応としては必ずしも関係がないとは言えないと思います。防災対策に関する行政から発信される情報を得ようとして参加した市民が情報を得ることができませんでした。

### 【市長意見・回答】

1月22日の防災講演会での来場者に対する対応については、誠に申し訳ありませんでした。私も出席し様子を見ました。会場に入れなかった来場者について、別の会場で一緒に聞くことはできないかと検討したのですが、対応ができなかったことについてはお詫びしなければなりません。

この津波浸水モデルシミュレーションのDVDは2月の中旬までに各自治会にお配りをする準備をしています。そこで、自治会への配布と併せて、地域に伺い津波浸水モデルシミュレーションの説明も行っていきたいと考えています。

## 8 市長によるまとめ

本日は災害時の地域情報の把握や災害時要援護者の支援等の今後も対策を考えていかなければならないことなど、色々と御提案もいただきました。また、防災対策に地域としてどのように取り組むかという点において、私からもお願いをさせていただきました。何度も申し上げさせていただいていますが、防災対策には自助、共助、公助があります。自分の命は自分で守るという自助、これはもう御自身で取り組んでいただく以外に方法はありません。公助については、本日お話をさせていただいた情報伝達の課題、避難所の備蓄の課題、逃げ場の問題等、行政が行うことについてはしっかりと責任を持って果たさせていただきます。その間の共助について、地域のつながりの中で、地域の皆様に地域を守っていただくということに対しても市は支援をさせていただきます、一緒に取り組んで進んでいきたいと考えます。

本日はすべての御意見、御質問にお答えできたか分かりませんが、大変貴重な御意見、御教示をいただきました。ぜひ参考にさせていただきます、行政のトップとして皆様を守るためにしっかりと政策を打っていきたいと考えますので、どうぞ今後も御協力をよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

## 9 集会後の確認結果

対話集会の中の質問について、次のとおり確認をしました。

**質問** 平塚市津波浸水モデルシミュレーションの作成にあたり、無料で視聴できるシミュレーション等（例えば、GoogleマップとNASAの高度データを使った、海面上昇による浸水シミュレーションであるフラッドマップ）の利用について検討を行ったか。

なお、検討を行った場合、有料にてシミュレーションを作成した理由は何か。

**回答** フラッドマップは海水面の高さによる地盤面の浸水域を一律に示したもので、堤防、護岸など水を防ぐ施設は考慮されていません。津波による浸水は海岸方向から押し寄せてくるだけでなく、河川の堤防を越え側面、背後から迫ってきます。そのような津波の動きを示すためには、フラッドマップで表すことができないことから採用しませんでした。

津波浸水モデルシミュレーションは、意識啓発用として津波が襲来した場合にどのように浸水域が広がっていくのかを動画で作成するため、委託をして作成したものです。

(防災危機管理課回答参照)

# 市民と市長の対話集会

## 市長と語ろう！ほっとミーティング

### 参加者・傍聴者アンケート結果報告

【回答数 18件（参加者 10件 傍聴者 8件）】

#### 参加者・傍聴者について

**年齢** 20代2名 30代1名 40代3名 50代1名 60代6名  
70歳以上5名

**性別** 男性 15名 女性 2名 不明 1名

**質問1** 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

#### 回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	3名	4名	7名
ポスターやチラシ	1名	2名	3名
町内会など地域から	1名	1名	2名
市ホームページ	1名	1名	2名
その他	4名	0名	4名

その他の回答には、新聞、地域誌等がありました。

**質問2** 市長との対話はいかがでしたか。

#### 回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	4名	2名	6名
まあよかった	4名	5名	9名
どちらともいえない	0名	0名	0名
あまりよくなかった	2名	1名	3名
よくなかった	0名	0名	0名

**質問3** 質問2であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

- 回答**
- ・テーマが大きすぎて話がまとまらなかった。
  - ・専門的な対策、計画にはつながらなかった。

**質問4** 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

**回答**

伝わった	4名
まあ伝わった	4名
どちらともいえない	0名
あまり伝わらなかった	2名
伝わらなかった	0名

**質問5** 質問4であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。(参加者対象)

- 回答**
- ・政策として実現するのか心配である。
  - ・対話のレベルが低かった。
  - ・市長の意見は防災の担当者の意見であり、市政のトップとしての意見を聞きたかった。

質問 6

対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

回答

- ・とても良かったです。
- ・参加者の中に専門家もいて、大変有意義でした。
- ・市民の様々な問題を共有していくために継続して行うべきである。
- ・単なる市民のガス抜きにならないようにしてほしい。
- ・事前に討議内容を煮詰めておくべきである。
- ・参加人数が少なく残念、傍聴者を参加者にすればよかった。
- ・今日のように、10人くらいの参加者数が良いと思う。
- ・参加者は好き勝手にマニア的なことも言いますが、財政難もありますので、市長には精査をして事業を行ってもらいたい。
- ・市民と市長の対話集会なので、専門的な話ではなく、分かりやすい内容で行ってもらいたい。
- ・市長や出席者から知らなかった情報を得ることができてよかった。
- ・防災対策以外の内容も取り上げてほしい。
- ・時間が短い。

質問 7

今後の対話集会でのテーマについて、取り上げたいことはありますか。

回答

- ・関心がある今、防災対策を継続して取り上げてほしい。
- ・絆について、取り上げてほしい。
- ・平塚市のごみの問題について、取り上げてほしい。
- ・平塚市の将来ビジョンについて、取り上げてほしい。
- ・少子高齢化問題について、取り上げてほしい。
- ・地域や自治会について、取り上げてほしい。
- ・平塚市の医療について、取り上げてほしい。